令和7年度 生命医科学域セミナーⅧ

**演題：分子病理学・新規創薬・動的病理学により
難治疾患を克服**

**筑波大学発の独創的方法論で医療の
未来を拓く**

演者：仲矢 丈雄 先生

関西医科大学 病理学講座・准教授

日時：令和7年9月30日(火) 18:00～19:15

会場：健康医科学イノベーション棟8階講堂

要旨：

分子病理学、分子創薬、数理等を融合させ、独創的方法論開発で不可能な治療・診断を可能にし難治疾患を克服する学際的研究(創薬病理学・動的病理学)を推進する。未来を担う研究者・医師を育成する教育と大学運営に貢献する。

私は、転写因子KLF5が大腸癌形成に必須であると証明した。立体構造不明なKLF5を標的に、蛋白間相互作用部位を数理的に予測しその模倣化合物により、副作用少ない抗腫瘍薬を産学連携で開発した。

立体構造不明蛋白を標的とする創薬可能化、神経作動薬誘導体による脳内腫瘍攻略、幹細胞制御や代謝を標的とするがん攻略、筋線維芽細胞の選択的標的化による線維化の攻略、生きたorganoidによる動的培養病理診断の開発を進め、難治の進行がんと線維化の克服を目指す。多臓器organoid、創薬可能化の研究基盤を構築し筑波大学の臨床・基礎医学・関連領域研究者に提供する。

何が未解決か共に考え基礎と臨床をつなぐ対話型学部教育、各自の関心専門に沿う研究と挑戦的研究を両立する大学院教育を、心のつながりを大切にして進める。

研究機関集積を生かし、産学連携、国際化、研究費獲得→筑波大学発展の好循環形成を推進し、日本の国際的地位向上、難治疾患克服に貢献する。